

IZUMIKAI

ALUMNI ASSOCIATION NEWSLETTER

DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

TOYO UNIVERSITY

2020 / No. 36

IZUMIKAI

03-09 ■ 退任教員挨拶

10 ■ 卒業論文 学科賞・泉会賞
卒業設計 学科賞・泉会賞

11 ■ 会員・準会員合同バスツアー
第21回 研究室対抗ソフトボール大会・茶話会

13 ■ 茶話会
連続公開講演会

13 ■ 学生便り

14 ■ 同窓便り

15 ■ 支部便り

16 ■ 役員組織図

17 ■ 活動報告

18-19 ■ 広告



木造の耐震性能向上に向けて(小幅板で造る木造耐震壁)

建築学科教授 松野浩一

1. 日本の多種多様な木造建築 — 歴史的背景を概観する

1.1 建築材料の視点から

古今東西を問わず、建築は木、石、鉄を材料として建設されてきた。建築史から見ると、エジプト時代以降3,000年間にわたって木は使われ続け、欧州では18世紀以降に石はコンクリートに代わり、木は鉄に変わってきた。そして21世紀の今日、欧州では再び木が使われ始めている。日本では19世紀中頃(明治維新以降)から西洋建築の材料であるコンクリート、鉄が一般的に使われるようになった。このような建築に使用される構造材料の変遷を図1のように整理することができる。鉄は、イギリスで起こった産業革命以降、薪が石炭そして石油に取って代わりエネルギー資源が変化するに従って、鋼が一般的な建築用材として普及した。



1.2 技術・文化・構法の視点から

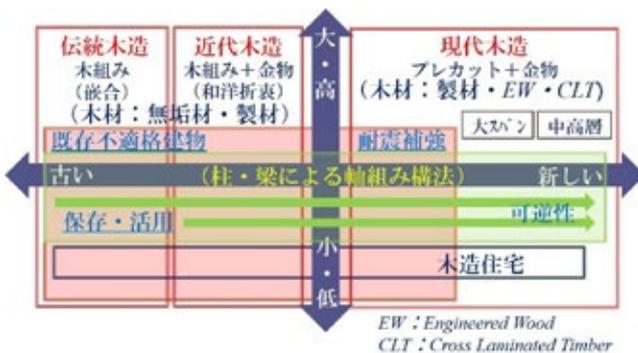
日本の木造建築史を概観するとインド、中国、朝鮮半島を経て伝わった北伝仏教と共に伝来した建築技術としての木造建築がある。おおよそ大和時代から平安時代に建設された社寺建築である。また、気候風土、生活文化に即して各地で発展してきた日本独自の建築文化としての木造建築がある。安土桃山時代～江戸時代の武家屋敷、農家、町家、商家として建設された住宅建築である。そして、明治維新後、欧米から伝えられた建築構法としての木造建築がある。この時期は、迎賓館をはじめとする大規模木造、住宅など小規模木造など洋館、和館、和洋館など和と洋が混在する時代である。そして、真壁造りとは異なる意匠となる大壁造りが盛んに用いられるようになる。また、昭和時代中頃まで教育施設である学校の校舎は、大規模木造建築として建設されてきた。

この様に日本の木造建築は、様々な技術、文化、構法、用途が融合しながら建築形態や建築空間の設えが多様化してきた、大別すると真壁造り、大壁造りごとの意匠がそれぞれ工夫され建設されてきた。このような木造建築文化は、日本特有のもので他に類を見ない。

1.3 木造構法の視点から

日本の木造建築を構法的に概観すると伝統木造建築、近代木造建築、現代木造建築に大別することができる。何れも鉛直材の柱、横架材の梁および桁による軸組構法である。軸組の柱と梁および桁などの接合部である仕口、横架材同士の接合部である継ぎ手を嵌合（かんごう）式で組む伝統木造、嵌合式に金物など接合具を積極的に用いる近代木造、そして、機械加工によるプレカット部材を主に金物で緊結する現代木造に分類することができる。

伝統木造の仕口、継ぎ手の木材加工は、建設現場での建て方工事前に、大工職人が“墨付け”“きざみ”という作業を仕事場または建設現場で行った。所謂、今日のプレカット構法である。現代木造と大きく異なる点は、嵌合して木組みするために接合部の形状が複雑で部材間に金物を使用しないことである。この接合部の作り方の違いが、木造構法ごとの建築物の構造性能に大きな影響を与えている。このような構法的な木造建築の様相について、建築物の高さの高低、面積の大小など建築規模を縦軸に、建設年が古い、新しいなど時間軸を横軸にして、日本の木造建築を図2のように整理した。図中には今日の建築基準法を起点として捉えた既存不適格建物のゾーンを示し、文化財建物を含む歴史的木造建築物の保存・活用という今日的課題を視野に入れた表記になっている。



2. 木造建築物の耐震壁と今日的課題

2.1 耐震壁の現状

木造建築物の主な構造耐力要素は、鉛直構面内に配置される構造耐力壁である。これらは、せん断系に分類される貫を内蔵した土塗り壁、木摺壁、落とし込み板壁、近年になって構造用合板による面材壁、軸部材の相欠きによる面格子壁、軸力系に分類される筋交いなどが一般的に用いられている。その中で、文化財指定木造建造物など伝統木造建築には、主に貫を内蔵した土塗り壁が用いられてきた。明治維新以降、欧米から伝わった木造構法により洋館、和風と洋風を折衷した和・洋館などの木造建築には、日本の伝統木造建築の設えを創出してきた真壁造りに代わり大壁造りが用いられ、筋交いを内蔵し

た木摺漆喰壁が多く用いられている。その後、筋交いは住宅を中心とした今日の現代木造建築には一般的に用いられる構造耐力壁となっているが、明治時代以前では筋交いや筋交いを土塗り壁の中に入れる考え方は一般的ではなく、その起源も定かでない。一方、今日では鋼材を利用した仕口金物、木造軸組の靱性を高めるために仕口部分に取り付ける仕口ダンパーなどが多く考案され使用されている。

ところで、木造建築物の構造性能を向上させるためには、稀に発生する地震時に建物全体の水平変位を小さく押さえるために高い初期剛性が求められる。そして、極希に発生する大地震時には高いせん断耐力と建物全体の変形に追随できる高い靱性能が必要となる。このことは、木造建築物は地震時には建物全体の水平変位を許容しながらその水平変位の増加とともに水平耐力も上昇する特徴があること理解しておくことが重要である。先に述べた様に、木造建築物には多種多様な構造耐力壁が存在しているが、初期剛性、降伏耐力、最大耐力、靱性能など建物全体の変形性状を考慮して耐震性能を向上させる実用的な耐力壁が見当たらないのが現状である。

2.2 今日的課題

今日の耐震基準により中規模木造建築物を設計する時、大断面集成材を多用したラーメン構造に木造ブレースまたは鉄骨ブレースを併用して耐震性を確保することが考えられる。また、免震構造にする提案も可能である。欧州で実用化が進められてきた CLT による中規模木造建築物の設計・施工も試みられている。さらに、現代木造による中規模建築物の水平剛性と耐震強度を確保するために木造軸組と鉄筋コンクリート構造、木造軸組と鉄骨構造などの混構造による建築物が建設され、異種構造の接合方法や、木造軸組と他構造体との変形性状の違いによる構造的課題も検討されている。

一方、筆者が取り組んでいる歴史的木造建築物の分野では、保存・活用しながら地域文化の伝承とともに地域活性化に向けた文化的活動が全国的に展開されている。日本古来の伝統木造建造物を広く公開しながら保存・活用するための取り組みである。歴史的、文化的、産業的な観点から今日まで原型を留めながら保存されてきた木造建築物の多くが国、地方自治体、市町村などから文化財指定を受け、それらの保存・活用が進められている。活用を目的とする場合、建築物の内部を含め広く公開することが求められるので、対象建築物の耐震性能を向上させることが絶対条件である。なぜならば、これら建築物が建てられた時代においても木造構法の進化は認められるが、そこでは耐震技術の発展は無かったからである。しかし、当時の人々も大地震を恐れていた事は容易に想像できる。歴史的木造建築物の耐震安全性確保は、日本の木造文化継承において喫緊な課題といえる。

3. 汎用性の高い木造耐震壁の開発

3.1 開発の経緯

木造軸組構法を対象として建築用途、建築規模、壁仕様(真壁、大壁、仕上げなど)に可能な限り使用制限の無い木造耐震壁を発明した。その名称は、構造・構法的特色を表現して“複層斜交重ね板壁”と

した。そして、試験体による構造実験、そこで得られた実験データを用いた歴史的木造建築物の耐震補強設計、複層斜交重ね板壁の製作方法および耐震補強工事における施工方法など一連の検討を設計・施工に関わりながら進めてきた。複層斜交重ね板壁の代表的な適用事例を表1に示す。

表1 複層斜交重ね板壁の歴史的木造建築物耐震補強工事の適用事例

建物名称	建設時期	建築用途	面積:建築/延べ床・階数	備考
中尊寺大長寿院庫裡	1863年頃	住宅	面積:197 m ² /197 階数:1階	田の字型住宅 世界歴史遺産
I 商店店舗	1913年	店舗	面積:164 m ² /164 階数:1階	商家
旧安田楠雄邸	1919年	住宅	面積:451 m ² /598 階数:2階	数寄屋造り 東京都名勝
哲学堂公園・絶対城	1915年	図書館	面積:- m ² /125 階数:2階	国指定名勝 中野区指定文化財
哲学堂公園・宇宙館	1913年	講義室	面積:63 m ² /63 階数:1階	国指定名勝 中野区指定文化財
奈良ホテル本館(木造)	1909年	ホテル	面積:- m ² /約4,600 m ² 階数:2階	和洋折衷、近代大規模木造
横山大観旧宅及び庭園 (横山大観記念館)	1954年	住宅兼 アトリエ	面積:251 m ² /308 m ² 階数:2階	数寄屋造り 国指定史跡及び名勝



写真1: 奈良ホテル本館(木造)
(耐震補強工事プレス発表)

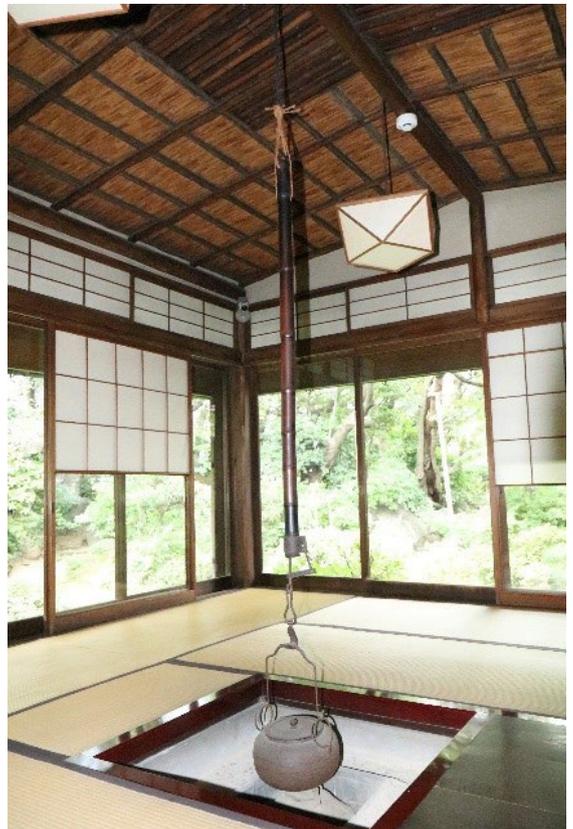


写真2: 横山大観旧宅及び庭園・鉦鼓洞
(2020年4月より旧宅耐震補強工事)

3.2 複層斜交重ね板壁の概要

既存建物、新築建物を問わず木造軸組み建築物の耐震性能を向上させることができる無垢材による木造耐震壁構法を考案した。

本構法は、最初に無垢材の小幅板を実りぎ継ぎまたは相欠き継ぎで単面材を形成する。次に、単面材を構成する小幅板が互いに斜交するように単面材を3層または4層に重ね合わせて複層の面材を軸組み内に構成して鉛直構面の壁面を構築するものであるが、水平構面の床組を構築することも可能である。

<小幅板で構成された複層斜交重ね板壁の構法的特長>

- (1) 木を無駄にしない。
⇒ 小幅板を多用する。(製材ロスを抑えられる)
- (2) 木の長所を活かす。
⇒ 小幅板を圧縮材で使用する。(木の高い圧縮強度を発揮できる)
- (3) 木の役割を明快に。
⇒ 小幅板を斜交に重ねて使用する。(壁面を効率良く活用できる)
- (4) 木の技術を活かす。
⇒ 小幅板を伝統技術で継ぐ。(簡易な伝統技術で製作できる)

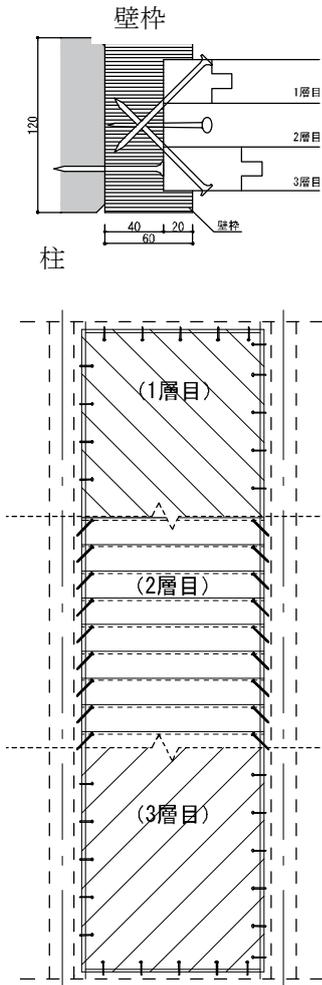


図3：小幅板3層・壁柱タイプ

3.3 複層斜交重ね板壁の構成

建築規模、壁仕様（大壁、真壁）に対応する小幅板3層により構築する壁柱タイプ、小幅板4層により構築する栈木タイプを考案した。それぞれの構成を図3、4に示した。各図とも柱芯々間距離を910mmで作図している。

① 壁柱タイプ (図3)

柱幅と同寸法の壁柱を設けてその壁柱に小幅板3枚を挿入して壁柱を軸組みにビス留めする。

柱幅4寸以上の軸組みに適用する事を想定している。大壁仕様に適している。

② 栈木タイプ (図4)

柱幅内に栈木を設けて栈木幅内に斜め板2枚を配置し、その外側に横板をビス留めする。

柱幅4寸以下の軸組みに適用する事を想定している。真壁仕様、大壁仕様ともに適している。

真壁仕様で仕上げる場合は、ちり幅を確保しながら仕上げの選択肢が多くなる。数寄屋造りの土塗り壁では、土塗り壁を栈木タイプに置き換え、柱のちり幅を確保しながら土塗りで仕上げる事ができる。

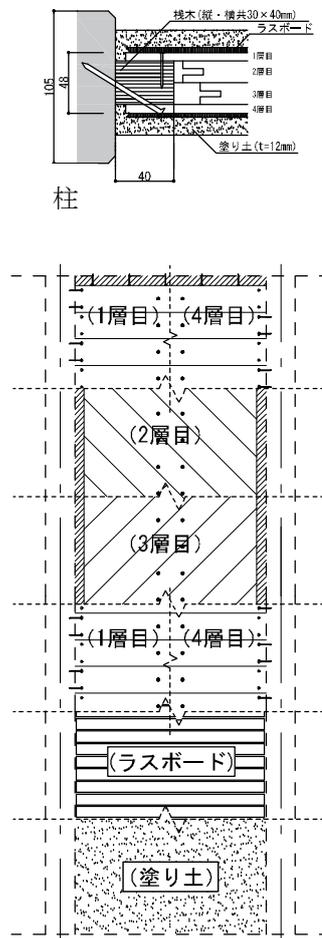


図4：小幅板4層・栈木タイプ

4. 複層斜交重ね板壁の耐震性能

構造実験により構造性能を確認している。その結果を図5、6に、構造実験状況を写真3、4に紹介する。

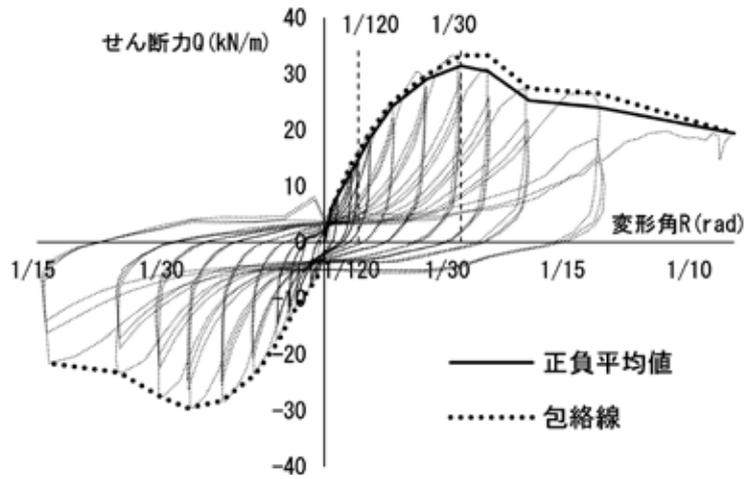


図5：
せん断力・層間変形角関係
(小幅板3層・壁枠タイプ)

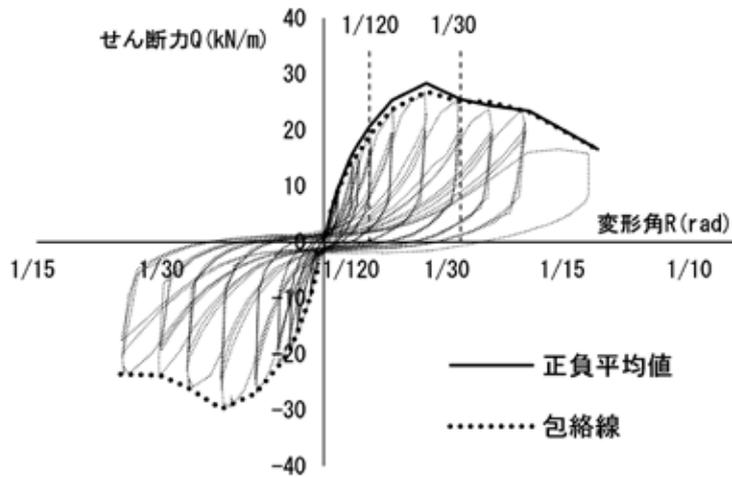


図6：
せん断力・層間変形角関係
(小幅板4層・栈木タイプ)



写真3：層間変形角 1/15rad 時の状況

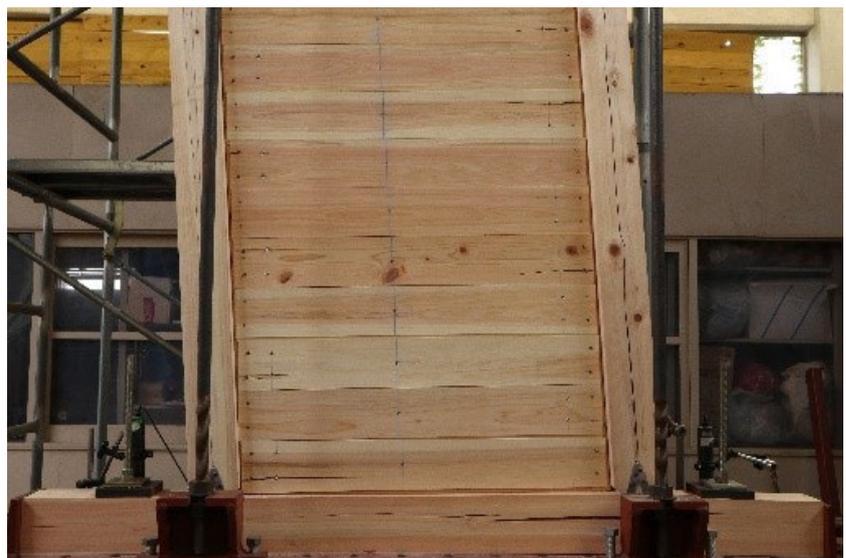


写真4：層間変形角 1/15rad 時の横張板の状況



退職のご挨拶 野澤 千絵 CHIE NOZAWA

2007年4月に、准教授として着任してから13年間、本当にお世話になりました。
今の私がいるのは、この13年間の学生や教員の皆様との
研究やプロジェクトのおかげであり、
感謝の言葉しかありません。

学生たちと切磋琢磨した大宮・毛呂山・鶴ヶ島プロジェクト

東洋大での教員生活は、故・内田雄造先生から、「私の後任ということは何も気にせず、とにかくあなたの自由に、思ったとおり活動しなさい」と、優しく背中を押していただいたことから始まりました。

建築学科では、3年生の「まちづくり計画演習」（旧「都市・建築企画設計演習」）では、朝霞市黒目川流域のまちづくり計画提案、毛呂山町の空き家トリアージや空き家を活かしたまちづくり計画提案、毛呂山町の都市公園の利活用によるまちづくり計画提案を題材にしました。2015年度からは、4年生の「総合設計演習」を担当することになり、さいたま市大宮駅東口の区役所跡地における MICE への再開発計画の提案、県営大宮公園のリノベーション計画の提案、埼玉県毛呂山町の空き家リノベーション設計提案、鶴ヶ島市全域の公共施設の再編方針・計画提案に基づいた旧役場跡地の設計提案を題材にしてみました。

これらの演習を履修していたOB・OGの皆さんは、当時の

グループによる課題への取り組み方や、意匠系の学生と計画系の学生の間での調整の難しさに苦悩した経験を思い出されることでしょう。

ただ、これらの演習は、単なる設計演習ではなく、実際の自治体の政策課題やプロジェクトをベースに、プロジェクトの企画提案段階から設計に至るまでのプロセスを、実務に近い形で行うことで、総合的なものの見方の習得を目指したものでした。こうした考え方は、まさに東洋大学建築学科の教育の根底に伝統的にあるもので、他大学と比べても特徴的なプログラムだと自負しています。

私自身、こうした演習を通じて、社会の中では、意匠的に高度なレベルの設計だけが評価の対象はないこと、地域課題の解決、新たな事業スキームや事業採算性、将来の維持管理負担など、様々な側面の問題を連立方程式のように解かなければ、物事は動いていかないという現実から目を背けないでほしいという思いで取り組んできました。



「住宅過剰社会」というキーワードとの出会い

東洋大学での研究者生活では、土地利用コントロールと空き家問題を、中心的な研究対象としてきました。そして、東洋大学での13年間で主に3冊の本を上梓することができました。

着任当初、川越キャンパスの周辺エリアが、市街化調整区域にあるにもかかわらず、なぜ、こんなにスプロールしているのか?と疑問に思ったことがきっかけでした。

川越市は、当時、人口増加や集落の活性化を目指して、市街化調整区域の開発規制を市の条例でかなり緩和したため、市街化区域よりも市街化調整区域の方に開発意欲が移行し、多くの農地や樹林地が無秩序に宅地化されていました。おりしも、埼玉県の開発審査会委員をさせていただくなど、開発許可行政に関わるようになったことも大きいのですが、ゼミ生の皆さんと一緒に、様々な市町村の状況について調査をしていきました。

こうした研究を進める中で、2014年6月に、蓑原敬氏らの研究会の議論を整理した「白熱講義～これからの日本に都市計画が必要ですか」（学芸出版社）を上梓し、私は「コンパクトシティは暮らしやすい街になりますか?」という部分を担当しました。

この本を読んで下さったNHKのプロデューサーさんからお声かけで、NHKスペシャル（空き家問題）に出演することになるなど、これまで付き合えなかったメディアの方々からの取材を受けようになりました。こうした中で、私の頭の中に、「建築過剰都市」という今の日本を如実に表すキーワードが浮かんできました。（建築学科なのに、すみません。）

そこで、もう少し広く一般社会の方に、「つくり続ける」だけの社会が抱える構造的な問題を提起したいと、2016年11月、講談社現代新書から、「老いる家 崩れる街～住宅過剰社会の末路」という新書の上梓へとつながっていきました。

拙著において「住宅過剰社会」とは、世帯数を大幅に超えた住宅がすでにあり、空き家が右肩上がりに増えているにもかかわらず、将来世代への深刻な影響を見過ごし、居住地を焼畑的に広げながら、大量に住宅をつくり続ける社会」と定義しました。おかげさまで、多くの方々に読んで頂くことができ、うれしいことに、拙著の中で提言の中には、実際に法制度の見直しが進められるようになったものも見られるようになりました。

ちなみに、「建築過剰都市」というキーワードについては、編集者から、言いたいことはわかるが、「建築」「都市」という言葉は一般の人には遠い存在で、それでは身近に感じてもらえない（＝売れない）と言われ、住宅に特化した方がシンプルで一般読者に身近だということで、「住宅過剰社会」というキーワードとなりました。

2018年12月には、2冊目の新書「老いた家 衰えぬ街～住まいを終活する」（講談社現代新書）を上梓し、空き家の予防策の重要性を提起しました。ここで、住まいの終活とは、「相続が発生する前から、所有者やその相続予定者が住まいに関わる様々な情報を整理・共有し、相続発生後の選択肢を考え、そのために安心して相談できる人的なつながりをつくっておくなど、住まいを円滑に「責任ある所有者・利用者」へ引き継ぐための一連の活動」と定義しています。

2020年4月からは、明治大学政治経済学部という新たな場で、これまでとは違った視点、特に、法政策学的な観点からも、都市政策や都市行政の教育・研究を続け、次世代に多大なツケを押し付けたくないよう、微力ながら尽力して参りたいと考えています。

最後になりましたが、これからも、泉会や建築学科・建築学専攻がますます発展することを心より応援しております。

卒業論文 学科賞・泉会賞

卒業論文賞	晴山 朋美	野澤研究室	総合設計制度で創出された公開空地の管理組合による維持管理負担に関する研究～東京都を対象に～
泉会賞優秀賞	宮下 南海	田口研究室	ミシュラン・グリーンガイドとインスタグラムに掲載された観光目的地の評価要因 ー上野・谷中・根津地区を対象にー
泉会賞奨励賞	吉田 涼樺 金澤 剛瑠	香取研究室	コンクリートに生じるひび割れの測定と数的評価に関する実験的研究
卒業論文賞奨励賞	櫻井 匠 大山 周作	イム研究室	トレーサガス法の測定方法が室内換気量予測値に及ぼす影響
	田中 穂高	浦江研究室	英国の設計情報マネジメント手法を用いた日本の設計不具合事例の分析に関する研究
	山崎 息吹	秋山研究室	超高層マンションの長期修繕計画に関する研究
	栗原 大樹	岡本研究室	工事現場の仮囲いにおける情報発信についての研究 ～地域や人々とのつながりに着目して～
	滝田 真也	李研究室	高さ幅比が4.5の場合である内蔵CFT式主筋を有する角形CFT柱の中心圧縮挙動
	丹治 捺依斗	田中研究室	地盤環境工学の見地による液状化に着目した基礎杭長設定システムの見える化に関する基礎的研究

卒業設計 学科賞・泉会賞

卒業設計金賞	齊藤 悠太	日色研究室	歩記
卒業設計銀賞	菊池 悠太	伊藤研究室	カタチの理由 樹木から条件反応を学び、建築のカタチに応用する
	木村 透	伊藤研究室	能動的発見的空間の可能性の形式
卒業設計銅賞	吉田 竣平	日色研究室	郷愁の再建 ー工場に見られる抽象的空間の可能性ー
	戸張 純	伊藤研究室	畜産と街をつないで__。
泉会賞	石川 拓光	日色研究室	沼辺の継承者たち

会員・準会員合同バスツアー

IZUMIKAI BUS TOUR 2019 IN TOCHIGI

見学場所

- 那須塩原市まちなか交流センター「くるる」
- 那須塩原市図書館「みるる」
- 石の美術館
- 聖パウロ教会
- アートビオトープ那須ノ水庭

今年度も泉会主催のバスツアーが開催され、栃木県那須地区の建築を見学しました。

3年目となる今回も、正会員、準会員合わせて約60名が参加し、1年生～大学院生まで、様々な学年の学生や卒業生と交流できる貴重な機会になりました。

また、今回は卒業生の伊藤麻理さんが設計・監理を行っている、那須塩原市の図書館「みるる」の施工現場も見学させていただきました。先輩の活躍を身近で体験できるとも刺激的なツアーになりました。



第22回 研究室対抗ソフトボール大会

優勝 大学院生チーム

泉会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が今年度も開催されました。昨年度に引き続き、大学院生合同チームが参加し、見事大学院生チームが優勝しました。優勝チームには泉会からトロフィーと賞金が授与され、準優勝チームには日建学院から日建学院賞と副賞が贈られました。



茶話会

日時

■ 2019年5月9日

会場

■ 学生ホール食堂棟1階

参加者

- 1年生 —— 約140名
- 参加在校生 —— 65名
- 参加教員 —— 5名

例年同様、上級生の引率で製図室や実験棟の見学を行った後、学生ホール食堂棟1階にて懇親会イベントを行いました。

今年もチーム対抗戦で、ひとりが建築に関する絵を描き、その絵が何を表現しているのかを当てるというゲームが行われ、優勝したチームには泉会から図書カードが授与されました。

同級生や上級生との親睦を深めると同時に、より建築に興味を持つきっかけをつくるイベントになりました。



連続公開講演会



木村吉成

KATSUYA FUKUSHIMA



古澤大輔

KOUCIHI KATO



西澤徹夫

TERUNOBU FUJIMORI

日時

- 第1回 2019年9月26日(木)
- 第2回 2019年10月24日(木)
- 第3回 2019年11月28日(木)

モデレータ

伊藤 暁

SATORU ITO

東洋大学建築学科准教授

コメンテータ

篠崎 正彦

MASAHIKO SHINOZAKI

東洋大学建築学科准教授

建築の論理と修辞

毎年恒例となっている連続公開講演会が今年も開催され、「建築の理論と修辞」というテーマのもと、3人の建築家にお越しいただきました。

それぞれの設計活動の説明に加え、テーマに沿った熱い議論が展開されました。

毎回100分近くに及び真剣なプレゼンテーションを聞ける機会はとても貴重で、川越に居ながら第一線で活躍する建築家に接することができる重要なイベントになっています。

学生便り



清水 海斗

KAITO SHIMIZU

東洋大学建築学科
3年

出会いについて

僕は大学に入っているいろいろな人と会うことができた。同じ趣味の人と出会い、そこでできた友人の誘いでリノベーションのイベントに参加し、リノベ関係の建築家や空き家をリノベしてそこで事業をしている方、それに興味がある一般の方など様々な人と出会った。建築を学んでいくうちに、やはり自分の手で何か作りたい、そして古い物が好きだった僕はリノベーションに興味を持った。実際に一軒家のリノベに参加したり、リノベ系のボラ

ンティアなどに参加し、様々な経験を出会いから得ることができた。偶然見に来た先輩から事務所のバイトの話が来たり、スノボの友人から大工の手伝いを頼まれたり、偶然の出会いから色々繋がっていると感じる事が多く、その出会いに自分から突っ込んで行くことでさらに出会いを生むことがある。もともと何事も受け身だった僕は大学に入って少しは成長できたと思います。



齊藤

NANAO HAYASHI

東洋大学建築学科
3年

頭と手

入学後のガイダンスで言われた「浴びるように本を読んでください」という日色先生の言葉を今でも鮮明に覚えている。その言葉に従い4年間で相当な量の本を読んだ。文学、哲学、科学など分野に制限はなく好奇心の赴くままに本を選んでいくことが自宅の本棚から伺える。また、本を読むだけでなく、たくさんさんの空間を体験してきた。有名な建築から古い民家、あるいは森や海といった自然など、こちらも分野に制限はないことがスマートフォ

ンのカメラロールから伺える。そうした好奇心を元にした知識と体験を「手を動かす」ということを通じて表現してきた4年間だった。これからも頭と手を動かしながら建築に向き合っていきたいと思う。



坂元

MASAHIRO WATANABE

東洋大学大学院
建築学専攻 1年

「今、したい事とすべきこと」

私は「建築におけるミクロとマクロの接続の問題」について知りたく修士課程に進みました。しかし実際はそうはいかず、大半を研究室活動と資格の勉強に時間を取られ、修士としての学術的な研究が疎かになっています。つまり、研究をしたいのにも関わらず、研究室活動や資格や就活といった「すべきこと」に時間を取られるのが実情です。

従って、自分にとって過大なタスク量であるなら自分自身で調節しながら振られた作業をこな

し、その中で如何に自分の時間を作るか、それが今の私達学生に課せられた課題のような気がします。

私は今、本を読みたいです。1日1時間は読書の時間を作るよう努めています。でも「すべきこと」を忘れぬように。

同窓便り



木元 洋祐
YOSUKE KIMOTO

42 期
工藤研究室

使えない文化財から 活用する文化財へ

京都嵐山、天龍寺にほど近い場所に位置する、京都府指定有形文化財の旧小林家住宅とその周辺建物を、美味しいパンが購入できコーヒーが楽しめる物販飲食店「パンとエスプレッソと嵐山庭園」として改装するプロジェクトに携わらせていただきました。

歴史ある良い建物を安全に活用するために文化財である旧小林家住宅は元々住居として使用されていたため、不特定多数が利用す

る店舗として利用する場合、建築基準法上、現状の雰囲気（建物としての本来の価値）を損なわずに活用するのが難しい状況がありました。そこで、京都市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例である建築基準法3条1項3号の但し書き条例を活用する事で合法的に現状の雰囲気を壊さずに活用が出来るような手法をとりました。現行法規で担保できていない部分を補うため、構造的な補強や、防災上の補強、運営上の補強を行いました。京都府内の民家での適用事例は少なく、今後、古い建物を残していく上での先進的な事例となってほしいと考えています。



支部便り「静泉会」静岡県支部



島村 芳三
YOSHIZOU SHIMAMURA

静泉会 会長
14 期
太田研究室

問合せ先
Shimamura建築研究所

「静泉会」(泉会静岡県支部名称)の活動報告です。直近では昨年の忘年会を中止し、その代わりに今年の新年会を兼ねて静泉会会合を1月10日に行いました。出席者はいつもとほぼ変わりはありませんでしたが、2名の欠席者がありましたので、合計10名で行いました。それぞれが雑談の中で近況等を話していましたが、箱根駅伝での敗北感が多少あったのが残念でした。わが東洋大学は他の私立大学に比べ、スポーツ以外の様々な側面でも好成績をあげていて、卒業生としてますます誇らしく思っています。これからも東洋大学全体として盛り上げていくための泉会の存在は大変大きく、皆で努力をしないといけないと思っています。その泉会の支部の中で、徳島県の活動が大変盛んで、我々「静泉会」も頑張らないといけないと思っていることを会合参加者の皆さんにお伝えし、次回の集まりでは各人が一人以上の新入会員を連れてくるようにとお願いをしました。

毎年、春過ぎには泉会総会が最近では白山で行われていますが、その際に静泉会会長である私が皆さんの前で「私は昔、第一学生寮に4年間もお世話になりました・・・」などと話をさせて頂いたところ、その総会後に参加者の中にいらした先輩から声を掛けて頂き、「自分も第一学生寮にいたんだ・・・」との話をお伺いしました。わが第一学生寮には我々寮生の親代わりとなる寮監さんという立場の方がいらして、福島静男・絹子さんというお名前のご夫妻でした。「私が入寮した際にはすでに70歳半ば位のお歳のご夫婦だったですね。私が卒業後数年でその第一学生寮が取り壊され、その後は信州に引っ越され、年賀状だけのお付き合いをさせて

頂きました・・・」などの昔話をさせて頂きました。「今では信州のどこかのお墓に眠っているのでしょうか・・・」との話をしましたら、「福島さんご夫妻のお墓は君のいる静岡にあるよ、御殿場の富士霊園だよ・・・」とお聞きし、びっくりしました。時々、信州方面に旅行に行った際に、おそらくこの信州のどこかの地に福島さんご夫妻が眠っていらっしゃるのだらうなとよく思い出していましたので、まさかの情報に驚き、急にその福島さんご夫妻にお会いしたくなりました。その総会后、早速その先輩が教えて下さったお墓がある東名高速道路御殿場インターチェンジ近くにある富士霊園に行ってきました。広大な土地に7万5000基ものお墓があり、とてもお墓というイメージとは程遠い素晴らしい環境で、その霊園内にある事務所で福島さんご夫妻のお墓の所在を教えて頂き、遅ればせながら大学4年間のお礼を申し上げるため、手を合わせてきました。その話を今は無き第一学生寮の集まり(数年前から集まるようになりました)で話をしましたら、なんとその今年の集まりを伊豆とし、一泊した後にその富士霊園に伺って福島さんご夫妻の墓参りを皆ですという計画になりました。若い時は墓参りなど・・・と皆は思っていたと思いますが、最近では後輩も含め、皆が歳を取ったせいか、お世話になった方々への礼を尽くす気持ちが当然のように備わった様です。これできちんとした大人になれた皆の姿を福島さんご夫妻に見て頂き、喜ばせてあげることができそうだと、ご夫妻が富士霊園で眠っていることを教えて下さった先輩にただただ感謝です。
静泉会会長 島村芳三 (14期 太田研)



役員組織図

＜泉会＞ 役員組織図 第19期 (幹事会メンバー：委任可)

2020. 3. 10

[本部役員]

役職	氏名	担当業務
会長	中路 孝子	総括
副会長	堀口 芳隆	広報・企画
	茂呂 大輔	
	木元 洋祐	
大学担当役員	日色 真帆	
財務	吉野 広二	財務
	中村 亮太	
事務局長	中村 純三	総務

[会長]

- 中路 孝子
- 岩堀建設工業
TEL049-225-5111
- [顧問(歴代会長)]
- 飯吉 伸一 (1, 2)
飯吉建築設計
TEL 03-5313-2244
- 長谷部 浩 (3, 4)
雄設計
TEL 03-3987-8151
- 佐藤 博美 (5, 6)
佐藤U.A設計
TEL 0957-74-5116
- 松崎 吉夫 (7, 8)
松崎吉夫建築研究所
TEL 03-5995-5777
- 松本 祐二 (9)
TEL 03-3940-8027
- 鈴木 澄夫 (10)
TEL 03-3647-5745
- 白旗 定幸 (11)
マナ建築設計室
TEL0422-28-7068
- 草野 律子 (12)
草野建築設計事務所
TEL049-227-8176
- 長峰 勝芳 (13)
大谷工業
TEL03-3494-3731
- 鶴田 謙一朗 (14)
黒川建設㈱
TEL04-7184-8586
- 細谷 功 (15)
スタジオ4設計
TEL049-266-5036
- 中山 秀明 (16)
中山秀明建築研究所
TEL049-240-2677
- 寺山 誠 (17)
島村工業
TEL048-775-1419
- 星野 洋介 (18)
交建設計
TEL090-9106-4905

[支部担当]

勝瀬 義仁
タック
TEL048-474-2727

[支部]

- 北海道 支部長 本間 寿幸(15) 011-241-9538 事務局 武内 一郎(5) 011-513-0711
- 新潟 田中 隆(6) 025-284-2266 風間 秀和(31) 025-284-2266
- 茨城 柴田 弘道(1) 0292-21-8111 奈良 昌樹(32) 029-822-4377
- 岡山 吉川 仁和(18) 086-214-4111 石川 哲郎(16) 086-284-6816
- 福岡 古賀 英雄(3) 092-662-2098 井出 昇(8) 092-626-0737
- 徳島 戸出 敏夫(12) 0883-22-2225 板原 智(19) 0883-22-2225
- 静岡 島村 芳三(14) 054-273-0713 植田 竜司(27) 054-221-3127
- 神奈川 河野 洋(3) 045-251-3796 原崎 久人(10) 050-3723-2935
- 群馬 空席 () 関口 敏之(30) 027-352-5168
- 山梨 飯窪 功児(8) 055-283-1157 三枝 信人(9) 0553-47-1653

[監査]

- 村上 雅章 (15期)
(丹青TDC)
- 内田 公夫 (17期)
泉建築舎 (090-9640-9128)

本部連絡先

〒 350-8585
埼玉県川越市鯨井2100
東洋大学理工学部建築学科 「泉会」
049-239-1679 (川越キャンパス同窓会室)

本連絡先は泉会活動以外には使用しません

[幹事] (*:非常勤講師)

- 1期 桑野 進 (桑野デザイン) 03-5936-8011
- 2期 田畑 貞和 (グッド・アイズ建築検査機構) 03-3362-0517
- 3期 上川 勇治 (街並工学研究所) 0492-52-1661
- 4期 松村 丘 (日本施設管理) 03-5340-5580
- 5期 岡崎 勇二 (岡崎工務店) 03-3982-2924
- 元持 秀人 (自営) 090-1771-0974
- 6期 小野塚 勉 0480-33-5185
- 7期 坂巻 一男 (建物保全支援機構) 048-729-6970
- 8期 草野 律子 (草野建築設計) 049-227-8176
- 9期 中村 純三 (岩堀建設工業) 049-225-5111
- 10期 橋本 秀世 (橋本秀世建築研究所) 03-3993-2755
- 小川 任信 (小川任信建築設計) 090-3097-9027
- 11期 森田 和巳 (森田建築設計室) 049-282-2888
- 12期 中山 秀明 (中山秀明建築研究所) 049-240-2677
- 13期 橋本 雅夫 (プリンスホテル) 090-2563-9368
- 14期 星野 洋介 (交建設計) 090-9106-4905
- 15期 小岩井 文夫 (エフビーエス・ミヤマ) 03-3639-7603
- 16期 中路 孝子 (岩堀建設工業) 049-225-5111
- 17期 松田 孝幸 (パルシップ) 03-3234-3303
- 18期 高杉 雄一 (高廣建設) 048-266-5618
- 堀口 芳隆 (交建設計) 03-3553-9112
- 19期 松岡 正樹 (自営・名古屋) 090-3452-6465
- 20期 寺井 明彦 (鈴木組) 03-3822-1785
- 21期 深川 繁久 (JALファミリティー) 03-3747-6435
- 22期 瀬沼 健二 (大成建設) 03-5625-0250
- 23期 市川 建治 (埼玉西部環境保全組合) 090-7823-0442
- 24期 増田 順久 (フジタ) 0429-93-3296
- 25期 田口 隆一 (ARU田口設計工房) 048-786-4284
- 26期 長谷部 勉* (H. A. S. Market) 03-6801-8777
- 27期 吉野 広二 (吉野建築造形工房) 049-265-7061
- 齊藤 宏昭 (足利工業大学) 090-9347-0445
- 28期 桜井 一郎 (リブラン) 03-3972-0072
- 松岡 大介 (ボラス暮らし科学研究所) 048-987-9111
- 29期 野村 哲也 (日本ランドデザイン) 03-3346-2233
- 池田 麗子 (川越市役所) 049-224-5961
- 30期 伊藤 良 (パンデミック) 03-5464-8930
- 田中 伸明* (ATELIER N) 0279-75-7820
- 31期 深町 仁至 (志木市役所) 048-483-1039
- 32期 伊藤 麻理* (U A O) 03-3498-3060
- 馬場 崇容 (日建ハウジングシステム) 03-3268-5862
- 須貝 重義* (シグアーキデザイン) 03-6459-0108
- 33期 茂呂 大輔* (スタジオ建築デザイン事務所) 090-4075-7904
- 34期 管 学 (ソリトシステムズ) 0242-73-2738
- 辰澤 茂和
- 35期 大矢 晋 (病院システム) 03-5396-3921
- 36期 神田 剛 (隈研吾建築都市設計事務所) 03-3401-7721
- 37期 太田 森政 (長谷工アーベスト) 03-5440-5813
- 38期 大場 奈央 (日本総合研究所) 090-3809-6291
- 中村 友子 (自営) 090-9155-3184
- 39期 菅野 知速 (研究生) 090-7689-1174
- 那賀島大地 (さいたま市役所) 048-829-1111
- 40期 保里 賢治 (構造計画研究所) 090-5316-8965
- 森 智香子 (日構シーエスエス) 048-653-2048
- 41期 新井 真吾 (レオパレス21) 070-2198-4142
- 42期 寺内 央 (中島工務店) 090-4369-0028
- 43期 古川 明広 (教育施設研究所) 090-4747-6078
- 氏家麻里子 (さいたま住宅検査センター) 090-7236-1344
- 44期 吉野 大輔 (さいたま住宅検査センター) 048-621-5111
- 橋本 文 (大成建設) 080-5553-7529
- 45期 若山 範一 (メダラム) 090-7277-5470
- 滝島 信吾 (大和リース) 080-2023-1140
- 46期 大山 宗之 (国際航業) 080-6503-6026
- 青柳佳央里 080-1848-4513
- 47期 折田 現太 (飛鳥建設) 090-4951-8299
- 佐藤 豪太 049-239-1414
- 48期 加能 良祐 (大林組) 080-4291-5432
- 梓澤 亜美 (昭栄建設) 090-2540-9174
- 49期 高岩 裕也 (大学院博士) 080-3129-6989
- 為貝 恵実 (岩堀建設工業) 049-225-5111
- 50期 安田 陽 (タトアーキテツ) 080-1305-8898
- 篠田 将 (K A P) 080-1208-3794
- 51期 内海 友博 (設計領域) 090-2221-0305
- 土屋 柚貴 (S A N A A) 080-5878-6806
- 柳田 実庸 (サンエイコー東日本) 080-6647-3114
- 久保 翔平 (大和ハウス工業) 090-2239-5291
- 52期 鈴木 郁弥 (大学院2年) 090-8494-7413
- 原 慧矢 (ミサフホーム) 080-9389-3997
- 53期 渡邊 雅大 (大学院1年) 090-8494-7413
- 植竹 淳史 (大学院1年) 080-9389-3997
- 54期 渡邊 雅大 (大学院1年) 090-8494-7413
- 55期 植竹 淳史 (現役4年) 080-9389-3997
- 56期 (現役3年)
- 57期 (現役2年)
- 58期 (現役1年)

[連絡方法と幹事の業務]

1. 幹事会及び支部交流会の連絡方法は原則として事務局よりメールまたはFAXで連絡し、出欠の確認をする。
2. 本部役員は受持ちの各期幹事と相互に連絡を行う。
3. 各期の幹事は同期の卒業生への連絡を行う。
4. 各期の幹事は、同期の卒業生の住所等の把握、印刷物の発行の協力、会費の納入状況の把握と徴収の協力を行う。
5. 幹事は会報の「同窓生だより」執筆者を選考し原稿の依頼をする。

活動報告

2019年度年間活動報告

月	理工学部（建築学科）「泉会」関連行事	泉会行事、会場、業務活動等
4	新入生オリエンテーション 入学式：4/6	・新入生オリエンテーション会長祝辞(4/4) 11:30～2201教室 ・準会員費集金及び記念品（三角スケール）贈呈（役員・学内幹事） ◇本部役員会 於：川越校舎 ・幹事会案内状メールでの発信
5	1年生対象の茶話会	・総会案内状メールでの発信 ○幹事会：5/18（土）15:00～ 川越校舎 ◇本部役員会
6	学祖祭 6/6	*4年生終身会費納入のお願い（各研究室、ゼミ長会議等） ○「泉会」総会・支部交流会 6/15（土）15:00～ 白山キャンパス 同期会4, 14, 24, 34, 44, 54期、 ・神奈川支部総会
7	講演会	
8	夏休み	・徳島支部総会
9	9月卒業式・学位記授与式 秋学期授業開始	2級建築士講座（協力：日建学院） 終身会費集金作業
10		
11	こもれび祭 11/3, 4 研究室対抗ソフトボール大会	・第22回「泉会杯」争奪研究室対抗ソフトボール大会（準会員支援） 日建学院協賛・泉会バスツアー2019（卒業生準会員交流）11/23
12	冬休み	・建設業界研究セミナー12/15 ◇本部役員会
1	授業再開	◇本部役員会
2	春休み	・卒計発表会・卒論発表会・泉会賞選考（準会員支援）
3		・新型コロナの影響で卒業式等中止

■主な事業活動項目と担当者

事業活動項目	担当役員
・泉会賞選考、新入生祝辞	中路 孝子
・新入生オリエンテーション	全員
・就職ガイダンス＋懇親会	全員
・幹事会	全員
・定期総会・支部交流・懇親会	全員
・広報・企画（会報『泉会』等）	木元 洋佑 茂呂 大輔
・財務	吉野 広二 裸野 香利
・HP維持管理	中村 純三 茂呂 大輔
・名簿の更新	中村 純三 中村 亮太
・活動マニュアル、事務連絡	中路 孝子 堀口 芳隆

広告

日建学院では、泉会ご協力の下 現役東洋大生から卒業生までこれからも全力で応援致します!

現役生へ朗報!!

建築士 学内講座

建築士法改正に合わせて、学内講座も大幅に拡充!!
「泉会」と「東洋大学 建築学科」が主催する
1級・2級建築士講座を、日建学院が特別学費で実施します。



東洋大生 3大特典

- ①資格講座 : 建築士・宅建士など、学生割引きを適用!
- ②建築系書籍 : 建築設計資料・住宅建築など、学生割引きを適用!
- ③その他 : 講演会・セミナーへの無料招待
学内催事での献本など



卒業生へ朗報!!

東洋大学工学部建築学科同窓会〈泉会〉提携学費及び講座一覧

Web講座

Web学習 の特徴

- 遠隔地や仕事等の理由でなかなか通学できない方でも学習可能。
- 自分のライフスタイルに合わせて学習を進められる。

No	講座名	一般学費(税別)	泉会会員提供学費(税別)
1	1級建築士 学科Web講座	300,000円	150,000円
2	2級建築士 学科Web講座	300,000円	142,000円
3	宅地建物取引士 Web講座	100,000円	80,000円

通学講座

※期間の日建学院で受講できます。

通学講座 (泉会提供学費) の特徴

- 各人個別なので学習進度が学生と学習環境が異なる。
- 決められたスケジュールの中で効率的に学習が進められる。

No	講座名	一般学費(税別)	泉会会員提供学費(税別)
4	1級建築士 学科本科(通学)講座	650,000円	590,000円
5	1級建築施工管理技士 学科(通学)講座	250,000円	209,000円

【期間】2021年3月31日まで ※授業料は別途となります。料学費決定の場合、決定額に準じます。



※写真は全てイメージです。

あなたの「夢」応援します。

日建学院

全国111校 最寄校の利用が可能です。
まずはお気軽に川越校までご連絡下さい。

【お申し込み・お問い合わせ】

日建学院 川越校 事務局

〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町15-13東上パールビル6F
川越駅西口駅前 TEL:049-243-3611



総合資格学院は、 東洋大生の資格取得を全面的にサポート!!

2019年度

1級建築士 設計製図試験 東洋大学卒業生合格者当学院受講率

東洋大学
卒業生の**8割以上**が
総合資格学院の講座を利用して
合格されています!



東洋大学卒業合格者29名中 / 当学院当年度受講生24名

(2020年2月19日現在)

総合資格学院は 全国・埼玉県 合格実績 No.1

おかげさまで総合資格学院は「合格実績日本一」を達成しました。これからも有資格者の育成を通じて、業界の発展に貢献してまいります。

総合資格学院 学院長 岸 隆司



埼玉県のストレート合格者のおよそ**7割**は当学院の当年度受講生!

2019年度

1級建築士 学科+設計製図試験 ストレート合格者占有率

1級建築士を
1年で合格するなら
総合資格学院



埼玉県ストレート合格者88名中 / 当学院当年度受講生61名

(2020年2月5日現在)

●2019年度 1級建築士設計製図試験 全国合格者3,571名中、当学院当年度受講生2,138名 全国合格者占有率59.9% ※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会[No.1表示に関する実態調査報告書]に基づき掲載しております。 ※全国/都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターに基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、2019年度1級建築士学科試験に合格し、2019年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表による。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

1級・2級 建築士 構造設計1級建築士 設備設計1級建築士 建築設備士 1級・2級 管工事施工管理技士 1級・2級 建築施工管理技士 1級・2級 土木施工管理技士 宅地建物取引士 インテリアコーディネーター 賃貸不動産経営管理士
[法定講習] 監理技術者講習 / 一級・二級・木造建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習 / 第一種電気工事士定期講習



総合資格学院



スクールサイト
www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト
www.sogoshikaku.co.jp

川越校 TEL.0120-130-900

〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町10-16 BOビル 1F

